

Rare Books at Medical Library

古賀, 京子
九州大学医学図書館

<https://doi.org/10.15017/1812927>

出版情報 : 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2016/2017, pp.49-53, 2017-08. Kyushu University Library

バージョン :

権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International



報告

医学図書館の貴重書庫にある変な本について

古賀 京子[†]

<抄録>

医学図書館にある貴重古医書の中で興味をひかれた資料について報告する。

<キーワード> 医学史, 宮入慶之助, 狩野亨吉, 禽戯秘録, 救急死法, 広恵濟急方, 金匱要略, 多紀元徳, 多紀元簡, 産椅論, 産論, 賀川玄悦

Rare Books at Medical Library

KOGA Kyoko

1. はじめに

医学図書館には約 5,000 冊の和漢古医書がある。所蔵館の少ない珍しい資料も多い。貴重書庫に入っているため、事前の申込みをすれば閲覧することはできるが、なかなか一般の眼には触れることがなく、存在を知られていないものもあると思われる。

かつてはそれぞれの教室で購入・管理されていて、その後図書館に移管されたものがほとんどである。衛生学教室の宮入文庫（宮入慶之助）や眼科教室の狩野文庫（狩野亨吉）等、個人旧蔵書を受け入れたものもある。体系的にどのような資料が収集されてきたか全体像を把握するために、元の所蔵教室名や蔵書印、備品番号等を確認する作業をすすめているところである。

医学図書館の和漢古医書は書名の頭文字と通し番号の簡易な分類記号が付されており、確認作業はアから始めて現在シまできている。これまでに見てきた資料の中で面白いと思ったものをここで数冊紹介したい。

2. 禽戯秘録

25 cm, 袋綴, 写本, 2冊. 書写者・書写年不明. 羽場敏印の印あり. 眼科学教室 5971-5972. 狩野. キ-105

乾巻には阿蘭陀音通之書, 阿蘭陀流油取様附能毒事, 油配制熱性ノ物ヲ押散方, 阿蘭陀流外科, 坤巻には金瘡機要等, 複数の蘭方医書から部分的に抜粋して編集したもののようである。

坤巻末に彩色された図があり、包帯の巻き方や、関節に腕や足をかけて曲げたり伸ばしたりして整体をしているような様子を示している。西洋風の服装の人物や、辮髪のような髪型をした人物も描かれている。



写真1 包帯姿の辮髪の人物（左）と関節をどうにかしようとしている人物（右）。なんともいえない表情。

巻末の最初の図が缺唇のものである。本文の治缺唇方法の項では「雙方ノ唇ヲ引アワセ唇長短ト廣狭トヲ見ハカラヒ切取ヘキ処ニスミヲヒキテ一方ヲ切テ血ヲ止亦一方ヲ切取血ヲ止事前ノ如ニシテ後ニ針ヲ以テ縫事・・・」と解説がある。また療養中禁忌之事として、「味ソ汁ヲ早く不用, 欠ビセズ, 笑ハズ・・・」とある。おそらく口唇口蓋裂の治療法と思われる。



写真2 缺唇之図（左）と缺唇療養之図形（右）。手術後の傷口を固定するために顔の中心部を2本の細い竹の棒で挟んでいる。

[†] こが きょうこ 九州大学医学図書館 (〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1) E-mail: koga.kyoko.676@jimu.kyushu-u.ac.jp

書名に「禽戯」とあったことから、よもや五禽戯に関する資料かと期待に胸を膨らませて手に取ったものだが、五禽戯とは全く無関係のようである。五禽戯とは、中国発の健康体操で、「熊、虎、鹿、猿、鳥」の五種類の動物の動きを模し気功を取り入れて動作するものである。中国後漢末期の医師華佗が考案したと考えられているが、現代に伝わる書物等はなく、ほとんど伝説となっている。

ではこの『禽戯秘録』の禽戯が何を示すのか、現時点では不明である。

3. 救縊死法



写真3 挿図

6丁, 23cm, 袋綴, 写本, 1冊, 書写者不明, 文化12年 [1815]. 眼科学教室 5352. 狩野. キ-42

救縊死法の後に続けて救溺死法の記述もある。

『広恵濟急方』(寛政2年 [1790])から抜粋して書写したものと思われる。『広恵濟急方』は、上中下3巻で構成されており、「救縊死法」と「救溺死法」は下巻の横死之類に分類されている。



写真4 『広恵濟急方』寛政2[1790]「縊死」の挿図

内容はほぼ同じであり、首をつつてしまった人を助ける際には、すぐさま縄を切るのではなく、まず足の下に台をあてがい、首をつつた人を一人が後ろからしっかりと抱きとめたうえで、もう一人がよく切れる刃物で紐を切ること、とある。挿図もよく似ている。

『広恵濟急方』は多数の和漢古方書を参考に編集された書物であるが、あえて出所は書かれていない。そのため定かではないが、縊死の記述は元をたどれば『金匱要略』の雑療方の中にある「救自縊死方」を参考にしていると思われる。内容は『金匱要略』の「救自縊死方」が非常に簡素であるのに比べ『広恵濟急方』の「救縊死法」では詳細に記されている。『金匱要略』には書かれていない内容もあることから、他の医書や民間療法等も参考にしたのかもしれない。しかし縄を切った後、縊人の両肩を踏んで髪を引っ張ること、胸をなで腕や脛を屈伸させること、気がついたら肉桂を煎じたものか薄い粥を含ませ喉を潤わせること、(竹等の)管で両耳に息を吹きかけること等の処置は大体同じである。

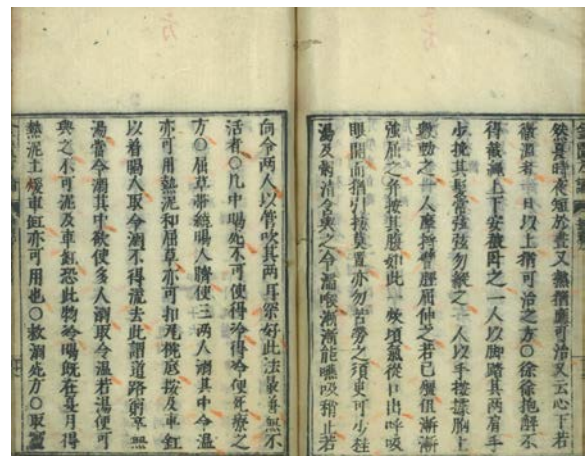
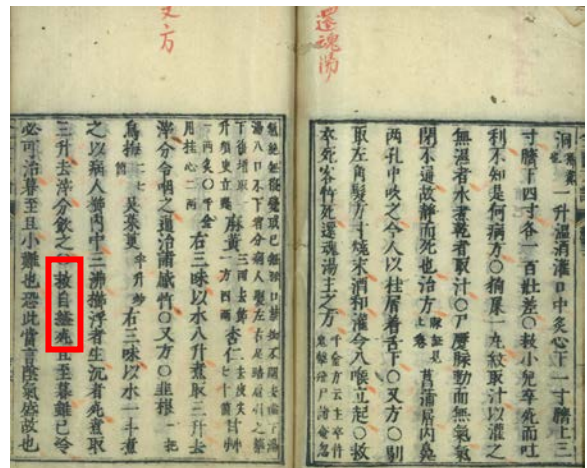


写真5 『金匱要略』寛保3[1743] 救自縊死の記述

『金匱要略』は中国の古典医学書である。『金匱玉函要略方論』とも言い、元来は後漢の張仲景が書いた『傷寒雜病論』の一部である。長年の戦乱の間に散逸し、

傷寒部のみが『傷寒論』として流布され、雑病部は行方不明になった。北宋の仁宗の時代に王洙が宮中で『金匱玉函要略方』を発見したことをきっかけに雑病部の校訂が始められ、完成したのが『金匱要略』である。『金匱要略』の雑療方は別の医学書から採って加筆した部分と考えられている。『傷寒論』とともに中医学の基本となる医学書であり、日本でも和訳され註釈本等が多数出版された。

『金匱要略』には挿図はなく、『広恵濟急方』の挿図が何を参考にしたのかは不明である。

4. 広恵濟急方

26cm, 版本, 3冊, 多紀元徳編 ; 多紀元簡校, 寛政2年[1790]. 衛生学教室 759. 宮入文庫. コ-103

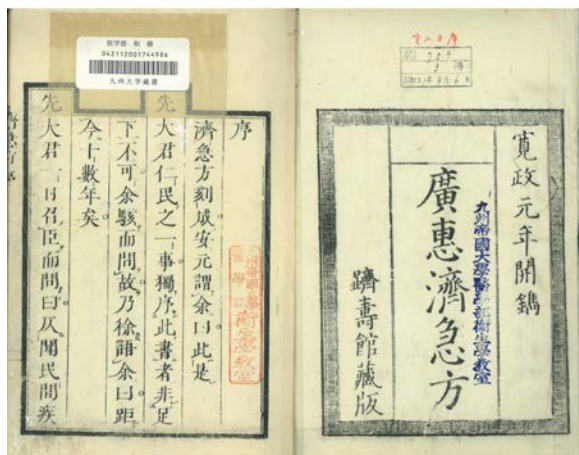


写真6 標題と序

『広恵濟急方』は、十代将軍家治の命により多紀元恵（1732-1801）が急病・夜間・辺境の地など医師の手当を直ちに受けられない時、身近の入手し易い救急薬の処方、調合の仕方をまとめたものである。家治は完成を見ることなく早く世を去ったが、十一代将軍家齊がその遺志を継ぎ、多紀元簡（1755-1810）が校正を加え天明7年に完成、寛政2年に出版された。

この本は珍しいというわけではなく、九州大学附属医学図書館には5部の所蔵がある。衛生学、眼科学、泌尿器科学、解剖学のそれぞれの教室に所蔵されていたことから、一般的に広く知られた基本的な資料であったことがわかる。

上・中・下の三巻からなる。上巻には序、例言、卒倒之類（人俄にたおるる病の類を茲に集む）、中巻には卒暴諸證（人平居無事にして忽に発るる病の類を茲に集む）、外傷之類（怪我の類を茲に集む）、下巻には横死之類（病にならずして死する類を茲に集む）、諸物入九竅（目鼻口耳肛門陰門にもろもろの物入たる類を茲に集む）、諸物中毒（もろもろどくにあたりたるなり）、婦人産前急證（おなごのさんまへの急なる病を茲に集む）、

臨産急證（さんにかかりての急病をことに載す）、産後急證、小児急證（こどもの急なる病を茲に集む）という構成である。

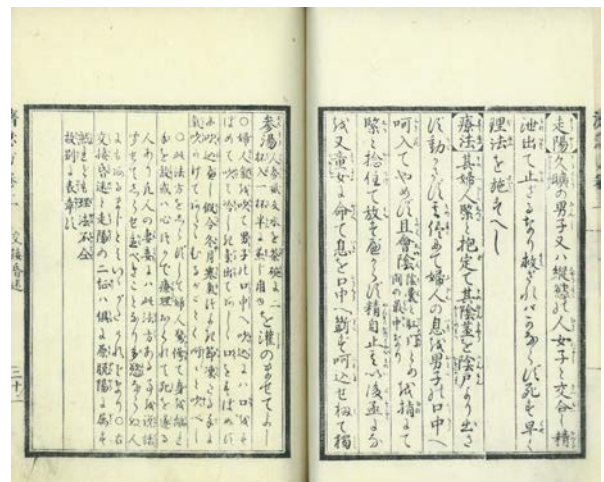
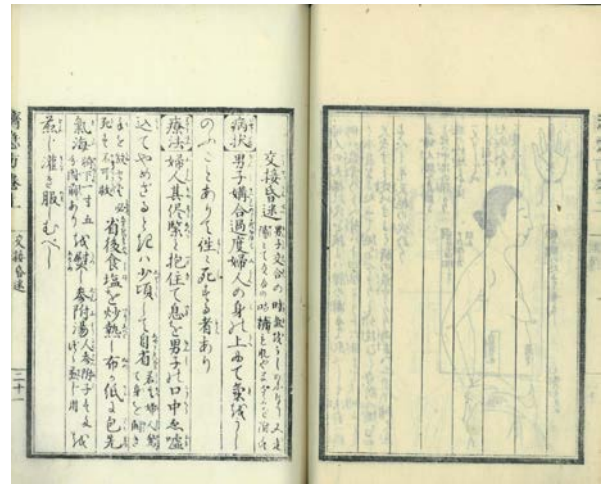


写真7 交接昏迷の項

上巻の卒倒之類に交接昏迷の項がある。病状として「男子媾合過度婦人の身の上にて気をうしのふことありて往々死する者あり」。療法として、婦人はそのまま男性をしっかりと抱いて口に息を吹き込んでやると正気に戻るが、もし婦人が驚いて体を離してしまうと死んでしまう、とある。また、走陽の項に、「久曠の男子又は縦欲の人女子と交合し精排出て止ざるなり。救ざればかならず死す。早く理法を施すべし」これに対する療法として、「其婦人緊と抱定て其陰茎を陰戸より出さず動かさずそのままにて婦人の息を男子の口中へ呵入てやめず。且會陰（陰囊と肛門との間の最中なり）を指にて緊と捻住て放すべからず」。妻妾にはこの方法を話して知らせておくべきと述べている。

漢字には仮名がふられており、平易な文章で挿図も多く、一般庶民のためにわかりやすく作られた実用的な書物だということがうかがい知れる。

5. 産椅論



写真8 挿図. さんごのねどころづ. 産後は図のようなゆつたりした体勢で休ませることを推奨した.

12丁, 28cm, 井口豊宗(良菴), 安政4年[1857] 書写者不明, 書写年不明. 眼科学教室 6241. 狩野. サ-34

日本では近世, 出産直後の女性は横になることを許されず, 産椅(さんい)という椅子に寄りかかって眠らずに7日間過ぎさなければならなかった. 常に側に人がおり, うとうしようものなら叱られて起こされた. この悪習がもたらす害について賀川玄悦(1700-1777)が『産論』で述べている. それによると天子后妃から下達にいるまで階級に関わらずあらゆる女性がこの過酷な慣習を甘受しなければならず, 逃れられるのは樵や漁師の妻女だけであった.

この『産椅論』は, 賀川玄悦の『産論』を引用しつつ, 産椅は廃止し, 枕を高くして脚を伸ばし楽な体勢で寝かせるべきことを図入りでわかりやすく説明している.

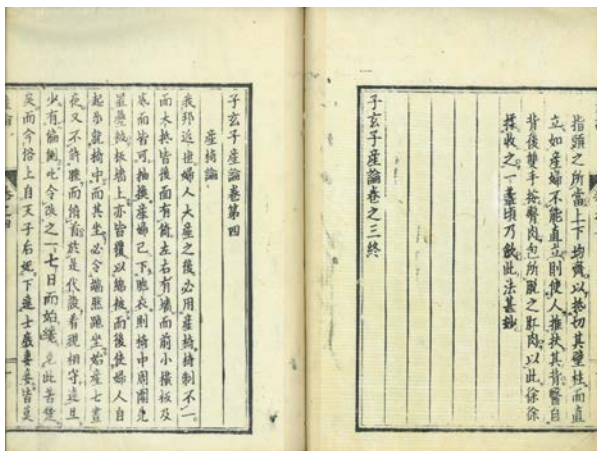


写真9 子玄子産論 明和2[1765]にある産椅論の記述

賀川玄悦は, 江戸中期の産科医. 字は子玄. 鍼灸術を学び, のち京都に出て, 鍼灸, 按摩を業とするかた

わら古医方を学んだ. たまたま一婦人の難産を鉄鉤を用いて救ったことから, 助産のことは手術によらなければ全うすることができないと悟り, 種々考案・工夫のすえ, ついに救護の術をいくつか案出し実施した. これによって その医名は大いにあがり, 賀川流産科の名は一世を風靡したという. 1766年(明和3)『産論』2巻を著し, 産科に関する玄悦独自の見解を明らかにした. 産婦の回生術や胎児の位置など前人が説かなかったところが多くみられる. 『産論』は, 孕育, 占房, 己娩, 産椅論并鎮帯論の構成である. 女婿の玄迪(1739-1779)は, 玄悦の隠退後その業を継ぎ, 父の『産論』に増補改訂を加えるなど, 賀川流産科の基礎を確立するのに貢献した.



写真10 賀川玄悦・玄迪の墓と記念碑(筆者撮影)

参考文献

- [1] 竹岡友三著, 医家人名辞典, 南江堂, 京都, 1931.
- [2] 福井保, 江戸幕府刊行物, 雄松堂, 東京, 1985.
- [3] 今井秀著, 近世の医療史: 京洛・大阪ゆかりの名医, ミヤオビパブリッシング, 東京, 2015.
- [4] 木下晴都[ほか]著, 図説東洋医学, 学習研究社, 東京, 1979-1989.
- [5] [多紀元恵撰];[多紀元簡校], 美年岡白牛酪考. 白丹砂製煉法. 広恵濟急方, 科学書院, 東京, 1990.
- [6] 田畑隆一郎編著, よくわかる金匱要略, 東京, 2004.



本著作の著作権は著者に帰属します。注があるものを除いて、
本著作の内容物はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改
変禁止4.0 国際（CC BY-NC-ND 4.0）ライセンスの下に提供
されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>